

ゆうやけ第2子どもクラブ 放課後等デイサービスガイドライン評価結果分析

2026年1月22日

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 12人（12人中）
- ・職員による自己評価 9人（9人中）

○実施期間

- ・2026年1月5日～16日

○評価の数値状況

*別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目には、「楽しい」という意見がある。子どもが内側に込めた願いに即しながら、子どもの気持ちが受け止められる、温かい雰囲気の活動をつくり出すようにしていることが評価されているのだろう。

○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、早わかりしようとせず、（どうしてなのか）と、自らに問い合わせているか」の項目には、「早わかりはしない（できない）が、問い合わせることは困難。余裕がない」という意見もある。自省的な回答だと思われるが、子どもの内側に込められた、その子の悩みや願いを探って汲み取る、という実践の基本を学び合っていきたい。そのために事例検討をしたり場面記録を書いたりすることを大事にしたい。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、傍観するのではなくて、働きかけて変化をつくりだし、理解しようとしているか」の項目には、「その子が何に興味を持つのか、歌や手遊び、本などで働きかけている」という意見がある。子どもは、外側から観察しているだけでは、内側に込めた願いや悩みは見えてこない。試行錯誤しながら働きかけて、子どもを理解しようする姿勢を、引き続き大切にしていきたい。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、独りよがりの判断をせず、ほかの職員に意見を聞くなどしているか」の項目には、「自分に見えないことも、ほかの人には見えていることもあるので、ほかの人の考えを聞くことは大事」という意見がある。子どもを理解することにつながるような事実を持ち寄ったり、その意味を考え合ったりするためには、事例検討などの話し合いが大事になる。こうした機会を、引き続き設けていきたい。
- ・「学校で頑張ってきたあの活動という、生活の流れを意識して、子どもを理解しようとしているか」の項目には、「自由に楽しく過ごせるように接している」という意見がある。子どもが場面に応じて、気持ちの持ちようを調整しようとすることは自然のこと

であるため、そうした気持ちを理解しながら、心身を伸びやかに動かせるような対応に、引き続き努めたい。

- ・「子どもの表面的な事がらを並べるのではなくて、働きかけて、肯定的な事実をつくりだし、それを意味づけようとしているか」の項目は、「はい」が6、「わからない」が2ある。子どもの、表面的な事柄を並べるだけでは、否定的な事柄ばかりになりがちになる。そうではなくて、子どもに働きかけて、肯定的な意味を見出すことを、事例検討などをつうじて、引き続き深めていきたい。
- ・「学校で頑張ってきたあの活動という、生活の流れを意識して、子どもを理解しようとしているか」の項目に、「自由に楽しく過ごせるように接している」という意見がある。放課後の生活にふさわしいテンポで活動することを引き続き大事にしたい。
- ・「保護者の言葉の内側に込められた思いや願いを汲み取ろうとして、懇切に対応しているか」の項目には、「努力はしているが、できるかどうか」という意見がある。自省的な回答だと思われるが、保護者の言動を表面的にとらえるのではなくて、そこに込められた思いを汲み取ることに、引き続き留意していきたい。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・財源の限度や、福祉分野の就職希望者の減少の中で困難はあるものの、必要とされる人数の指導員を確保できるように、引き続き努めたい。
- ・子ども1人ひとりを深く理解しながら、その子の内側に即した活動を進められるように、事例検討や場面記録を大切にした研修の機会を、引き続き設けていきたい。

○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子どもや保護者の言動をそのまま受け入れるのではなくて、そこに込められた悩みや願いを汲み取っていくのは、職員側に気持ちのゆとりが必要になる。そのためには、必要な人員を確保するように努めるとともに、子ども理解や人間理解の認識を深めていくための研修が必要になる。財政難や多忙化の中で、簡単ではないが、こうしたことに、引き続き取り組んでいきたい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2026年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2026年1月31日より）